

## 加美町（中新田中学校区・鳴峰中学校区）の取組

### 【目 標】

加美町立小学校8校、加美町立中学校2校、町内県立高等学校1校を対象とし「探究し続けるまち・加美町」を町の志教育のテーマに、地域の教育力を多様な方法で学校教育に取り入れながら、将来を生きる方向性を主体的に定めていく志教育を推進する。

（加美町が目指す子ども像）

「夢や志を持ち、郷土愛にあふれ、可能性に挑戦し続ける子ども」

（今年度の方針）

- 志教育の中心に置いてきた「総合的な学習（探究）の時間」について、改めて、各校・各発達段階の取組や地域社会との連携状況を確認する。
- 志教育に関連する意識調査をもとに現状の成果と課題を把握し、小中高の系統性と地域社会との連携を一層強化していくことで、志教育に更に磨きを掛けていく。

### 【取組の概要】

（１） 総合探究部会…各校の「総合的な学習（探究）の時間」担当者を集めた研修会（年間4回実施）

- ①小中高の「総合的な学習（探究）の時間」の現状について共有を図った。
- ②「実践体験型PBL」について理解を深め、各校の「総合的な学習（探究）の時間」を見直した。
- ③各校で「児童・生徒が地域と連携して課題解決に取り組む学習」となるように、対象学年と単元を決め、全員が指導計画を作成した。

（「実践体験型PBL」で作成した主な単元と内容）

＜加美町立中新田小学校＞ 5年生、25時間

今年度、豊屋を見学し、藁の可能性を学んだ。



「発見！お米の可能性  
～お米の良いところを発見・発信しよう～」  
農業従事者から加美町の米づくりについて話を聞き、課題を設定し、課題解決に取り組む。

＜加美町立広原小学校＞ 3年生、30時間



「広原の農業を知ろう」  
JA加美よつばや営農販売部園芸課の方から話を聞き、自分の課題を持ち、情報を収集したことを生かして、野菜の栽培を行う。

＜加美町立鳴瀬小学校＞ 3年生、30時間



「大豆パワー大発見」  
地域の農業従事者（カミックス）から、加美町の大豆づくりの話を聞き、課題を見付け、大豆づくりと収穫、食品づくりに挑戦する。

＜加美町立中新田中学校＞ 2年27時間、3年22時間

紙芝居を作成し、図書館で一般の方に披露



「中中生×加美町 元気プロジェクト」  
2年時にフィールドワークを行い、地域活性化等のプロジェクトを企画し、3年時は具体的なアイデアの再検討と提案、企画を実行する。

＜加美町立東小野田小学校＞ 3年生、65時間



「加美町ワン田一ランドの良さを伝えよう」  
下野目ふるさと環境保存会の協力を得て、田植え、稲刈り等を体験し、体験を生かして課題を設定し、課題解決を行い、地域へ発信する。

＜加美町立西小野田小学校＞ 4年生、53時間



「たんけん、発見。小野田と鳴瀬川」  
アユの放流体験や生き物観察、水質調査等を基に課題を設定し、課題解決に取り組み、地域の方に発表を行う。

＜加美町立鹿原小学校＞ 高学年、12時間



「鹿原ワン田一ランドの良さを発信しよう」  
地域の農業従事者の協力を得て、田植えや稲刈りの体験をし、説明を聞く中で、課題を設定し、課題の解決を行い分かったことを発表する。

＜加美町立宮崎小学校＞ 6年生、40時間



「考えよう『食』について」～米づくり～  
石母田ふる里保全会から話を聞き、体験をし、米づくりに関する課題を見付け、保全会やJAの協力のもと課題解決を図り、発表する。

＜加美町立賀美石小学校＞ 5年生、34時間



「大きく育て私たちの稲」  
地域コーディネーターや農業従事者、JAの協力を得て米づくりを体験し、米づくりに関する課題解決を図り、学んだことを発表する。

＜加美町立鳴峰中学校＞ 2年28時間、3年36時間

ポスターセッションで探究したことを発表



2年生は「みち探」でグループでよりよい町（学校）創りについて課題解決学習を行う。  
3年生は「あい探」で個人が町（学校）にどう貢献できるかプロジェクトを考え、提案する。

④学校魅力化コーディネーターが、地域の教育資源と児童・生徒とのパイプ役を担い「総合的な学習（探究）の時間」等での児童生徒の“やりたいこと”を支援した。

（主な取組）

- ・鳴峰中学校の探究学習ゼミ方式の確立と、持続可能な地域の協力体制づくりの支援
- ・中新田中学校「加美町元気プロジェクト」での企画の実行に向けた支援

（町役場に制作物寄附、図書館での紙芝居披露、等）

⑤中高で連携を図った探究学習の発表会の実施

（主な取組）

- ・2月6日中新田高校の地域創造学の発表会を、中新田中学校2年生と「オンラインで接続」

＜宮城県中新田高等学校＞

企画案を提案し、関係者の意見を企画に生かす



「100年つづくまちづくり」  
地域創造学の2、3年生が、加美町の地域創成を題材とした課題解決型学習に取り組み、加美町魅力化プロジェクトを発信する。

中新田高校での発表⇔中新田中学校で参観





## (2) 志教育担当者部会…各校の「志教育」担当者を集めた担当者会の実施（年間3回実施）

- ①意識調査を6月と12月に実施し、結果分析による課題把握と改善策の検討を行った。調査対象を小学校3学年以上の児童と保護者、中学校全学年生徒と保護者、小・中学校の教職員とした。
- ②調査結果の分析を基に、各校での教育活動や地域と連携した志教育の充実を図った。

（主な取組）

- ・小学校5、6年生が「自分にはよいところがある」が低いことが分かり、各校で異学年交流や様々な場面で児童の良さを認める教育活動を充実させた。
- ・児童・生徒が地域に貢献している実感が少ない現状が分かり、各校では地域と連携した学習を一層充実させた。また、児童・生徒の学習と地域とのつながりについて教員が説明をした。

## (3) 志教育「スイッチオン！」

芸人を外部講師として招き、小学校5、6年生及び中学校各学年を対象に授業を2回実施、小・中学校教員対象研修会を各1回、町民向け講演会を1回実施

（主な取組）

### ①児童・生徒向け授業の目的について

- ・1回目（9月上旬）…失敗を恐れず挑戦していく意識、互いに応援し合う姿勢の醸成
- ・2回目（10月）…自己表現の具体的な方法の学びと、実践力の向上

### ②教員向け研修会（9月上旬）の目的について

- ・児童・生徒のやる気スイッチを押す、心をつかむ手立てを学ぶ

### ③町民向け講演会（11月16日）の目的について

- ・児童・生徒の成長に大切な周囲のフォローについて学ぶ
- ・1、2回目の授業での学びを生かした児童・生徒の発表の場



※発表テーマ「自分自身のプレゼンテーション」に、22名の小・中学生が立候補した。

※講演会には約200名の町民（宮城県教育庁義務教育課、北部教育事務所、町長、町議会議員、学校評議員、PTA本部役員、保護者、児童委員・民生委員、区長 等）が参観した。

## 【成果と課題】

- 意識調査の質問「自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」に対して、小学校5年生の81%（6月に比べ12月7%増）、6年生の84%（6月に比べ12月6%増）、中学校2年生の89%（6月に比べ12月5%増）が前向きに回答し、実践体験型PBLの視点で見直したことで、児童・生徒主体に探究する学習が増えた。
- 意識調査の質問「これまで、地域や社会のために実際に活動したことがある」の前向きな回答が、特に、小学校5年生で38%から50%、小学校6年生44%から54%と増加し、各校で地域を題材にした探究学習が展開されたことで、児童の地域貢献への意識の醸成に生かされた。
- 外部講師芸人による授業で、失敗を恐れず挑戦し続ける姿勢を学び、夢や目標を持つ児童・生徒が18%増えた。（6月意識調査76%に対し、授業後94%の児童・生徒が具体的な夢や目標を掲げた）また、町民向け講演会で22名の児童・生徒が立候補し、町民に元気を与えた。
- ▲小学校では、児童主体に課題設定をさせないままでの体験活動が中心であったり、教師主導であったりするなど学校間や学年間の差が散見された。志教育の「目指す子ども像」や「身に付けさせたい資質・能力」をグランドデザインとして可視化し、町全体としっかり共有していきたい。
- ▲意識調査から、「総合的な学習の時間」に学校で何が行われているか、保護者が理解できていない状況が確認できた。保護者への周知と共有を図ることで教育効果を高めていきたい。
- ▲「地域や社会をよりよくするために何かをしたい」と考える児童・生徒が全国平均より多いが、小学校から中学校に進学すると低下する。「自分には良いところがある」が小学校中学年から高学年に進むと低下し、全国平均を下回る。小中高で連携を図った志教育の手立てに生かしたい。